

アウトドアスポーツ活動の専門志向化と環境への意識に関する研究

A study about relationship between specialization of outdoor sports activities and awareness to the environment

1K06B066

指導教員 主査 原田宗彦先生

角田 誠弥

副査 松岡宏高先生

【緒言】

「環境の 21 世紀」と叫ばれるようになった現在、環境問題への社会的注目度は高まっている。元々は、1960 年代の公害問題をきっかけに人々に認知され始めた環境問題であるが、現在では地球環境問題という形に変わり、多様な問題として広まりつつある。また、そんな現在の環境問題には、当事者・利害者の関係が曖昧であったり、国際問題であるなど解決困難とされる点がいくつかある。そのため、国際的な取り組みだけではなく、個人レベルでの取り組みが重要であり、環境教育の必要性が注目されている。しかし、日本の環境教育は、北欧などの環境先進国に比べて大きく遅れをとっており、新たな環境教育の推進を探ってゆく余地がある。そこで本研究では、環境問題解決に向けて、どのようなアプローチが考えられるか、スポーツ科学の観点から検証をしていく。

【目的】

自然の中で習慣的に行うアウトドアスポーツ活動に注目し、その専門志向化と環境意識形成の関係性を明らかにすることを目的とする。具体的には、アウトドアスポーツ活動者の専門志向レベルを「低」、「中」、「高」の 3 つに分類し、環境への「知識」、「意識・関心」、「行動意図」、「行動」の項目において比較、考察を行い、アウトドアスポーツ活動の専門志向化が環境意識形成に与える影響について検証する。

【方法】

冬季は「みやぎ蔵王えびしスキー場」を訪れたウィンタースポーツ活動者に対して、夏季には「湘南鵠沼海岸」を訪れたマリンスポーツ活動者に対して訪問留置法で質問紙調査を行って得た、計 545 部の回答を分析。専門志向レベルと環境に関する「知識」、「意識・関心」、「行動意図」、「行動」との間で一元配置分散分析を行う。回収データの加工および統計学的処理は統計パッケージソフトウェア (SPSS Ver17.0J for Windows) を用いて分析を行った。

【結果と考察】

- ・「知識」環境問題に関連する用語の認知度を比較すると、全体的には、専門志向レベルの「低」と「高」の間で有意な差がみられた。
- ・「意識・関心」環境問題に関連する用語を提示し、その関心度を比較すると、全体的には、専門志向レベルの「低」と「中」、「低」と「高」の間で有意な差がみられた。
- ・「行動意図」これからの環境配慮行動意図を比較すると、全体的には、専門志向レベルの「低」と「中」、「低」と「高」の間で有意な差がみられた。
- ・「行動」現在行っている環境配慮行動を比較すると、全体的には、専門志向レベルの「低」と「中」、「低」と「高」の間で有意な差がみられた。

このように、環境に関する「知識」、「意識・関心」、「行動意図」、「行動」のどの項目におい

でも有意な差が出ていることから、アウトドアスポーツの専門志向化が進むにつれて、人々は環境問題に対して意識・関心¹を抱き、環境に配慮した行動を心がける傾向があるということが明らかになった。特に、地球温暖化に関する質問項目の回答が高い平均値を示したことから、ウィンタースポーツにおける雪不足や、マリンスポーツにおける海水面の上昇など、直接的に競技に影響を及ぼす環境問題に対する意識・関心が強く抱かれ、環境配慮行動にまで結びついていることが推測される。